第３章　語順：倒置と情報構造

正しい英文解釈をするためには、主語・動詞を確かめ、文型を把握することに尽きるわけだが、この文型が定型通りにSV～という語順にならない場合がある。主語と動詞の順番が変わることを**倒置**と呼ぶが、これにもある種の暗黙のルールが存在する。それは**情報構造**と呼ばれるものだ。

情報は一般に、旧情報と新情報が存在し、**旧情報**とは〈**相手（読者）がすでに知っていると判断される情報**〉であり、**新情報**とは〈**相手（読者）はまだ知らないと判断される情報**〉のことである。そして、**旧情報**はふつう**文頭**に現れ、**新情報**は**文末**に現れるということが統計的にわかっている。そして、**新情報に焦点（focus）**が当たる。

- **旧情報：相手（読者）もすでに知っている判断される情報 ☞ 文頭**
- **新情報：相手（読者）はまだ知らないと判断される情報　☞ 文末 ⇨ 焦点**

実は日本語でもそういう傾向があることをご存じだろうか。

(a)「私、昨日、ヨシコと渋谷までカラオケに行ったの」
(b)「私、昨日、渋谷までカラオケしに行ったの、ヨシコと」
(c)「私、昨日、ヨシコとカラオケし行ったの、渋谷まで」

上記例文で、(a) だと「カラオケ」、(b) だと「ヨシコ」、(c) だと「渋谷」にそれぞれ焦点が当たるのではないだろうか。我々は無意識のうちに、語順を変えることで、ある部分だけを浮き彫りにしているのである。

この章では、倒置や語順転倒が起きる文に注意すると同時に、どうしてそういう語順になったのかまで考察していきたい。